

テレビ番組におけるバラエティ番組の位置づけ

鹿 島 我

The Variety TV Programs in All TV Programs

Ga KASHIMA

I はじめに

良くも悪くもバラエティという番組ジャンルは日本のテレビ界の大きな特徴の1つである。TVタレントで海外居住歴の長い大橋巨泉は経済誌のインタビューの中で「バラエティーというジャンルの番組が存在するのは日本だけ」という主旨の発言を行っている¹⁾。

バラエティ番組のよし悪しについて論じるのは、ここでは避けるが、1日のテレビ放送時間のうち、視聴者の在宅率、視聴率が共に高い19時から22時までの3時間、いわゆるゴールデンタイム（以後、GT）において、日本放送協会（以後、NHK）を除く民間放送（以後、民放）の番組の多くがバラエティ番組であることは、新聞等のテレビ欄を見る限りにおいても明らかである。お笑い評論家で大学専任講師の西条昇は「日本ほどバラエティ番組が好まれる国はほかにないのではないか」²⁾とも述べている。

2009年4月、株式会社東京放送ホールディングス（以後、TBS）がそれまで放送していたバラエティ番組を他の時間帯に移動させるなど大幅な改編を行ってスタートさせた報道番組（月～金曜日 18時40分～19時50分）はGT枠での放送にもかかわらず視聴率1ケタ代を低迷。わずか1年で打ち切りとなり、再びバラエティ番組に切り替えられた³⁾。この報道番組の内容やクオリティを差し引いて考えても、日本人がバラエティ番組を好む国民であることを示す一例といえる。

1953年2月1日にNHKが、同年8月28日には日本テレビ放送網株式会社（以後、日本テレビ）がそれぞれテレビ放送を開始して以降、半世紀を超える歴史の中で、幾多のバラエティ番組が生まれ、テレビ史を彩ってきた。その歴史は多くの文献で紹介され研究報告が

なされている。

本稿ではバラエティ番組を歴史的観点から時系列的に羅列するのではなく、現在を基準にした考察を試みる。バラエティ番組の誕生から現在に至るまでを系統的に分類する足掛かりとすることを目的とする。

なお、バラエティに関しては「バラエティ」と「バラエティー」と2種類の表現が使われているが、本稿では「バラエティ」に統一する。

ただし、他の文献等を引用する場合は著者・編者の表記を尊重するものとする。

II バラエティ番組の定義

1. 辞書的な定義

(1) 英和辞典による定義

英和辞典で「variety」はどのように記載されているのか。「新英和大辞典」⁴⁾には6番目に「variety show」とある。さらに「variety show」を見ると「歌・曲芸・寸劇・ダンスなどを見世物にする演芸」とある。

また「ランダムハウス英和大辞典」⁵⁾では、やはり、9番目に「バラエティ・ショー」という項目がある。意味は「歌、踊り、寸劇など種々の出し物から構成される興業」である。

以上2点からバラエティ番組の「バラエティ」という言葉は、「バラエティ・ショー」と名付けられた興業から派生した言葉であると想定できる。それが転じてバラエティ番組となり、「演芸の幾つかの要素を織り交ぜて構成される番組」と定義することができる。

(2) 国語辞書による定義

日本の国語辞書ではどのように記載されているの

か。「広辞苑」⁶⁾で「バラエティ」は3番目に英和辞典の意味をさらに詳しくした「レビューで歌謡、舞踊、寸劇などの幕なしの続演。パリエテ」とある。さらに4番目に「落語・漫才・曲芸・歌舞など諸芸の演芸をとりまぜた演芸会」とも記載されている。

また「国語大辞典」⁷⁾では3番目に「ショーの形式。歌、踊り、寸劇など種々の演目で構成されたもの」とある。

これらを総合すると、バラエティ番組とは「バラエティ・ショー」というレビュー形式の興業から生まれた言葉であると定義することができる。

また、バラエティ番組とは、演芸番組、もしくは寄席番組という定義もできるが、昨今、民放で、この手の演芸だけで成り立っているバラエティ番組は、日本テレビの「笑点」(日曜日17時30分～)など、数えるほどである。テレビ創成期のバラエティ番組を意味する言葉が国語辞書の改版が進んでも更新されず、最新の版でもそのまま継続されていると考えられる。

(3) 用語辞典による定義

新しく発生・派生した言葉を広く取り上げている用語集ではどのように記載されているのか。「現在用語の基礎知識2010」⁸⁾で調べてみると「バラエティ」もしくは「バラエティ番組」に相当する単語は記載されていない。

要因としては、この手の用語集が毎年、次々と生まれる新語や造語に対応するように発行されていることが考えられる。その中であって、その意味をある程度想定できる「バラエティ番組」「バラエティ」という言葉は記載されていないと推測される。

ただし、「現在用語の基礎知識」から派生した「現代用語の基礎知識 カタカナ外来語／略語辞典」⁹⁾には「バラエティ・ショー」という項目を見出すことができる。そこには「一つの番組のなかに歌・話・寸劇などを組み合わせ一つの流れを作るという演出形式の番組。フジテレビの『笑っていいとも』などが、その例」という記載がある。バラエティ番組の演出方法に触れ、具体的な番組例にまで言及している。また、最近のバラエティ番組に欠かすことができない要素である「話」=「トーク」についても触れていることから、最近のバラエティ番組に最も近い定義であるということができる。

2. 法律・放送基準による定義

(1) 放送法的定義

日本における全ての放送事業者の規律を規定しているのは「放送法」である。放送法は1950年に「電波法」「電波監理委員会設置法」とともに「電波三法」として公布されて以来、幾度かの改正を経て現在に至っている。

その放送法¹⁰⁾では、バラエティ番組をどう規定しているのか。第1章の2「放送番組の編集等に関する通則」第3条の2に「国内放送の放送番組の編集等」があり、その2に次のような規定がある。

放送事業者はテレビジョン放送による国内放送の編集に当たっては特別な事業計画によるものを除くほか、教養番組又は教育番組並びに報道番組及び娯楽番組を設け、放送番組の相互の間の調和を保つようにしなければならない。

放送事業者たる放送局は、報道番組や教養・教育番組だけを制作するのではなく、娯楽番組も相互の調和を保つように制作し放送しなければならないと放送法に定められている。既述の「バラエティ番組の辞書的定義」に照合して考えると、この「娯楽番組」は、バラエティ番組であると想定できる。

しかし、放送法では他にこれ以上「娯楽番組」を特定していると思われる記述を見出すことはできない。ちなみに放送法第1章「総則」の第2条「定義」の5に「教育番組」とは「学校教育又は社会教育のための放送番組」とあり、さらに「教養番組」は「教育番組以外の放送番組であって、国民の一般的教養の向上を直接の目的とするもの」と規定されている。

バラエティ番組の具体的な内容、目的についての規定について、あえて関連づけるなら、既出、第1章の2「放送番組の編集等に関する通則」第3条の2「国内放送番組の編集等に関する通則」に次のような規定がある。

放送事業者は、国内放送の放送番組の編集に当たっては、次の各号の定めるところによらなければならない。

1. 公安及び善良な風俗を害しないこと。
2. 政治的に公平であること。
3. 報道は事実を曲げないこと。
4. 意見が対立している問題についてはできるだけ多くの角度から論点を明らかにすること。

この規定の2、3、4は番組全体、特に報道番組を想定していると考えられるが、1は娯楽番組、すなわちバラエティ番組にも該当する。

以上のことから放送法によるバラエティ番組は「教養番組、教育番組、報道番組と相互の調和を保つように設けられた、公安及び善良な風俗を害しない娯楽番組」と定義することができる。

(2) 日本民間放送連盟放送基準による定義

社団法人日本民間放送連盟（以下、民放連）は民放を会員とし、「民放共通の問題を処理」し「民放の公共的使命達成」を目的として組織された社団法人である。

その民放連が定める「日本民間放送連盟放送基準」¹¹⁾ではバラエティ番組に関してどんな基準を設けているのか調べてみると「5章 教育・教養の向上」で教育・教養番組に対して、さらに「6章 報道の責任」で報道番組に関する規定が設けられているが、放送法同様、バラエティ番組を特定した規定を見出すことはできない。

ただし、その前文を含め全体を見てみるとバラエティ番組に対する基準が浮かび上がってくる。その前文「放送にあたって重視すべき点」として、次の5つが記載されている。

1. 正確で迅速な報道
2. 健全な娯楽
3. 教育・教養の進展
4. 児童および青少年に与える影響
5. 節度をまもり、真実を伝える広告

「2. 健全な娯楽」こそ、バラエティを想定した規定である。では、「健全な娯楽」の「健全」とは何を指すのか「放送基準」を順に見ていく。

放送基準の(5)には「人権・性別・職業・境遇・信条」などによって取り扱いを差別しない」とある。さらに(6)では「法令を尊重し、その執行を妨げる言動を是認するような取り扱いはしない」。(26)では「公衆道徳を尊重し、社会常識に反する言動に共感を起こさせたり、模倣の気持ちを起こさせたりするような取り扱いはしない」とある。

以上をまとめると、民放連が放送基準で規定する「バラエティ番組」とは「基本的人権を尊重し、法を遵守し、反社会的な言動を扇動しない娯楽番組」と定義することができる。

(3) 日本放送協会放送基準による定義

日本放送協会（NHK）は放送法に基づいて設立された放送事業を行う総務省所轄の特殊法人である。NHKの定める「放送基準」¹²⁾に「バラエティ番組」に関する記述は存在するのか。前文の基本原則に次のような記載がある。

1. 世界平和の理想の実現に寄与し、人類の幸福に貢献する
2. 基本的人権を尊重し、民主主義精神の徹底を図る
3. 教養、情操、道徳による人格の向上を図り、合理的精神を養うのに役立つようにする
4. わが国の過去の優れた文化の保存と新しい文化の育成・普及に貢献する
5. 公共放送としての権威と品位を保ち、公衆の期待と要望にそうものであることを基本原則として、ここに、国内放送番組の基準を定める。

また「第2章」には「各種放送番組の基準」があり、第1項「教養番組」、第2項「教育番組」、第3項「学校放送番組」と基準が設けられている。さらに第7項には「芸能番組」という基準が次のように設けられている。

1. 優れた芸能を取りあげ、情操を豊かにするようにつとめる
2. 古典芸能の保存と各種の芸能の育成に役立つようにつとめる
3. 放送の特性を生かした新しい芸術分野を開拓する
4. 芸術作品の放送については、その芸術性を尊重し取り扱い、良識に基づいて慎重に行う。

同じく第8項には「娯楽番組」に関する基準がある。

1. 家庭を明るくし、生活内容を豊かにするような健全な娯楽を提供する。
2. 身体的欠陥などにふれなければならないときは、特に慎重に取り扱う。
3. 方言や地方特有の風俗を扱うときは、その地方の人々に反感や不快の念を与えないように配慮する。

以上を総合すると、NHKの放送基準に定めるバラエティ番組とは放送法、民放連の放送基準と同様、基本的人権と法や法令を順守することを前提としたうえで、「優れた芸能の保存と新しい芸術を開拓する芸能番組と身体的欠陥や地方に対して特に配慮を施した娯楽番組である」と定義することができる。

3. 番組を制作する上での定義

(1) 制作部署でみるバラエティ番組

テレビ局には一般企業の部局とは異なる、番組を制作することに特化した部署が存在する。その構成、名称は各放送局によって多少違うが、概ね次の4つに分類することができる。

- 報道局（部）系（以下、報道）
- スポーツ局（部）系（以下、スポーツ）
- 情報局（部）系（以下、情報）
- 制作局（部）系（以下、制作）

「報道」は毎日定時に放送されるニュース番組や天気予報等を主に制作する部署である。ドキュメンタリー番組や選挙における開票速報などの特別番組も「報道」の制作である。最近ではバラエティ的要素を取り入れた報道番組も見られるようになってきたが、基本的にニュースや事件などを扱った報道色の強い番組を制作するため、バラエティ番組を制作する可能性は極めて低い部署である。

「スポーツ」は、生放送、もしくは中継録画を編集したスポーツ中継、スポーツニュース、スポーツ選手や団体などを扱ったドキュメンタリーなどスポーツに特化した番組を制作する部署である。関係の強いスポーツ団体が特筆すべき成績を残した際には特別番組としてバラエティ要素の強い番組を制作する場合もあるが、基本的にはスポーツに特化した番組を制作するため、バラエティ番組を制作する可能性は極めて低い部署である。

「情報」はその名前のおり「情報番組」を制作する部署である。ただし、バラエティ番組の中には「情報バラエティ」という言葉がある通り、情報番組は、バラエティ番組との区別が最も難しい番組である。

では、「情報」が制作する「情報番組」とバラエティのカテゴリーの1つである「情報バラエティ」はどこが違うのか。それは、放送の形態と番組内で扱う内容によって区別することができる。

情報番組の多くは月曜日から金曜日、ウィーク・デーの午前中に放送される。番組内容は、芸能ニュースや前・当日や近日中の報道から派生する話題、さらに天気予報や交通情報などである。

一方、情報バラエティは多くの場合、テーマを絞り、それを検証する形式で放送される。速報性を求められ

る場合を除いて、番組内で、天気予報、交通情報、芸能ニュース等は放送しない。

少し混同しそうだが「制作」こそ、バラエティ番組を制作する部署である。「制作」はドラマや一部のドキュメンタリーの制作も行っているが、制作する番組の大部分はバラエティ番組である。

「制作」系の部署で制作した番組であることは、バラエティ番組であることを判断する重要な要素である。

(2) エンド表示でみるバラエティ番組

テレビ番組を見ていると放送終了直前にエンドロール、もしくはエンドスーパーが表示される。番組制作に携わったスタッフや制作会社、協力機関、著作権等を紹介するもので両者の違いは「ロール」がロール紙を広げていくようにテレビ画面の右から左へ流れるように表示される形式で、「スーパー」は表示を何回かに分けて等間隔で次々と切り替える形式である。

このエンドロール、エンドスーパーだが、制作系が制作するバラエティ番組ではある程度の時間を確保して、主要なスタッフを紹介するのに対し、情報系の番組では著作の他は最低限の表示しかしないということが通例となっている。

例えば、関西地区では株式会社フジ・メディアホールディングス（以下、フジテレビ）系の関西テレビ放送株式会社（以下、関西テレビ）でウィーク・デーの午前中に「とくダネ！」と「よ〜いドン」が放送されている。視聴する限りどちらも情報を扱う番組なのだが、2つの番組のエンドを比較してみると、「とくダネ！」は「制作著作 フジテレビ」というスーパーが1枚表示されるのみであるのに対し「よ〜いドン」は、主要スタッフの名前がロールで紹介されている。

以上のことから「とくダネ！」は情報系の部署が制作する「情報番組」。「よ〜いドン」は制作系の部署が制作する「情報バラエティ番組」と分類することができる。

ちなみに「報道」が制作する「ニュース番組」も「情報」が制作する「情報番組」同様、スタッフロールが流れることはなく、「協力」と「制作著作」のスーパーのみを流すことが通例となっている。

(3) 出演者でみるバラエティ番組

既述の国語辞書による定義に、バラエティ番組とは「諸芸の演芸をとりまぜた演芸会」とある。この言葉を

出演者にあてはめると、お笑い芸人、ミュージシャン、俳優など、何らかの「芸」を持っている芸能人が出演している番組はバラエティ番組とすることができる。

反面、テレビ局の社員、もしくは契約社員であるアナウンサーのみが出演する番組は、バラエティ番組的要素を含んでいる番組でも、そこに芸を見出すことはできないので、バラエティ番組ではないということになる。

Ⅲ バラエティ番組の放送時間

本稿では「ゴールデンタイム (GT) において数多くのバラエティ番組が放送されていることは、新聞のテレビ欄などをみても明らかである」と述べている。

このことを実証するために、新聞のテレビ欄を参考に、GT 他におけるバラエティ番組の放送時間の検証を試みた。

1. 調査方法

新聞の縮刷版¹³⁾を用い、2011年6月1日～30日の1カ月間、関東地区、民放での全放送から既述の定義に基づいてバラエティ番組を選び、放送局ごと、時間帯ごとの放送時間を調査した。6月は期末期首特番の影響をあまり受けない時期であり、関東地区は視聴者数が最も多い地区であることが、この時期と地区を選んだ理由である。

調査対象の番組は全国にネットワークを持つ、日本テレビ、株式会社テレビ朝日 (以下、テレビ朝日)、TBS、株式会社テレビ東京ホールディングス (以下、テレビ東京)、フジテレビで放送されている番組に限定した。

なお、調査の対象とした時間帯は、GT にプライムタイム (以後、PT) も加えた。

PT は19時から23時までの時間帯を指し、GT 同様、高い視聴率が期待できる。テレビ局が重要視する視聴率の主要3項目にも「全日」「GT」とともに「PT」が含まれている。主要3項目から「全日」を外したのは、放送局によって1日の放送時間が異なることと、GT、PTと違い、高視聴率が望めること以外の要因が働き、番組放送につながっている可能性があるからである。

各バラエティ番組の放送時間は新聞に掲載されている開始時間から次の番組の開始時間までとし、10分

単位で切り上げる。最近の傾向である55分スタートや25分スタートは時間帯ごとの調査を容易にするため、それぞれ5分繰り上げて00分、30分スタートとする。

また、あくまでも各時間帯での放送時間の調査であるため、21時から放送開始の2時間番組はGTの調査の場合は最初の1時間のみを対象とし、PTの調査においては2時間を対象とするものとした。

2. ゴールデンタイムのバラエティ番組

GT は19時から22時までの3時間を指し、1日のうちで、最も高い視聴率が期待できる、まさに黄金の時間帯である。そんなGTにおけるバラエティ番組の6月の放送時間は下記のとおりである。

GTの平均放送時間：約2時間23分

この時間帯において放送される番組の4分の3以上がバラエティ番組ということになる。

また、バラエティ番組以外に放送された番組をジャンル分けしGTの平均放送時間をバラエティ番組と比較してみると次のようになる。

表1 各ジャンルの平均放送時間 (GT)

バラエティ	約2時間23分
ドラマ	約20分
アニメ	約7分
スポーツ	約4分
映画	約5分

アニメはテレビ朝日、テレビ東京でのみ放送され、ドラマは各局でまんべんなく放送されている。映画は放送時間が21時からの2時間だが、GTでは1時間だけを該当する時間とした。スポーツにはサッカーの国際試合が2試合、プロ野球中継が1試合含まれている。

また、バラエティ番組の放送局別の放送時間は次のようになる。

表2 バラエティ番組の局別放送時間 (GT)

日本テレビ	約2時間38分
フジテレビ	約2時間26分
テレビ東京	約2時間24分
TBS	約2時間17分
テレビ朝日	約2時間08分

GTにおけるバラエティ番組の放送時間が最も長い放送局は日本テレビである。他局に比べてドラマの放送回数が少ないことが要因と考えられる。

一方、最もバラエティ番組の放送時間が短かったテレビ朝日は、バラエティ番組以外に「スポーツ」「ドラマ」「アニメ」「映画」と多くのジャンルの番組を放送しているためである。

3. プライムタイムのバラエティ番組

プライムタイム（PT）は19時から23時までの4時間である。GTに22時以降の1時間を加えることで視聴率はほぼ変わらず、視聴者の年齢層がGTよりも高くなる。そんなPTにおけるバラエティ番組の1日の平均視聴時間は次のようになる。

PTの平均放送時間：約2時間53分

GTより割合としては減少したが、それでも3分の2以上、4分の3近くがバラエティ番組ということになる。

なお、PTにおけるバラエティ以外の番組の平均放送時間は次のようになる。

表3 バラエティ番組の放送時間（PT）

バラエティ番組	約2時間53分
ドラマ	約35分
報道	約12分
映画	約8分
アニメ	約7分
スポーツ	約4分

GTと比較して、アニメ、スポーツは増加していない。つまり、10時以降、この2ジャンルは放送されていないことになる。また、GTにはなかった報道番組がジャンルとして新たに加わっているが、これはテレビ朝日の「報道ステーション」（月～金曜日 21:54～）の影響である。

放送局別の順位は次の通りである。

表4 バラエティ番組の局別放送時間（PT）

日本テレビ	約3時間22分
テレビ東京	約3時間12分
TBS	約2時間56分

フジテレビ	約2時間46分
テレビ朝日	約2時間08分

PTの最大の特徴は、最も長い時間バラエティ番組を放送している日本テレビと最も短いテレビ朝日を比較すると実に1時間14分もの差が生じていることである。

これは、日本テレビがPTでもコンスタントにバラエティ番組を放送しているのに対し、テレビ朝日はPTとGTのバラエティの放送時間が同じためである。テレビ朝日では、増加した1時間を月～金曜日は報道番組、週末はドラマと映画の放送に費やしているためである。

また、GTで2番目にバラエティ番組の放送時間の長かったフジテレビがPTでは4番目に後退したのは、22時から23時までの1時間にドラマの放送時間が増加し、週末には報道番組を放送しているためである。

4. 曜日別にみるバラエティ番組の放送時間

バラエティ番組の放送時間と曜日はどのような関係があるのか調査した。GTにおいては、次のような結果となった。

表5 曜日別放送時間の比較

曜日	GT	PT
月曜日	約2時間06分	約2時間30分
火曜日	約2時間44分	約3時間20分
水曜日	約2時間24分	約3時間02分
木曜日	約2時間17分	約2時間57分
金曜日	約2時間21分	約2時間36分
土曜日	約2時間30分	約2時間57分
日曜日	約2時間18分	約2時間51分

1週間の中で最もバラエティ番組の放送時間が長いのはGT、PTともに火曜日である。

詳しく調べてみると、火曜日は日本テレビ、テレビ朝日、TBS、テレビ東京の4局がGTの3時間をほぼ毎週、バラエティ番組の放送にあてている。しかも日本テレビ、テレビ朝日、TBSの3局は1時間のバラエティ番組を3本立てで放送している。フジテレビも21時まではバラエティの放送枠である。新しい週がスタートして2日目、多忙な中、自分の好きな番組を選択し短時間だけ視聴するというライフスタイルがう

かがえる。

もう1つ、注目はGTで3番目に放送時間の長い水曜日が、PTでは2番目になっていることである。時間だけでみると、22時から23時までの1時間で実に42分もバラエティ番組を放送していることになる。また、木曜日もPTだけでみると、GTより40分もバラエティ番組の放送時間が増加している。

以上から、バラエティ番組の放送時間はウィーク・デーのまん中、火曜日、水曜日、木曜日に集中していることがわかる。

また、GTで2番目に放送時間の長かった土曜日がPTでは3位に後退しているのは、土曜日の22時以降、バラエティ番組に限らず様々なジャンルの番組を放送していることを示している。

IV バラエティ番組の分類

バラエティ番組は「バラエティ」という言葉の本来の意味が示す通り、千差万別、様々な種類の番組が存在する。そこで、バラエティ番組をさらに細かくカテゴリーに分類することを試みた。

1. 調査方法

前章「バラエティ番組の放送時間」の調査同様、2011年6月にGT、PT枠で放送されたバラエティ番組をそれぞれさらに次の12のカテゴリーに分類した。

なお、番組はレギュラー番組、もしくは準レギュラー番組のみを対象とし、1回限りの放送で次回放送が未定と考えられる特別番組は除外した。

- ①「トークバラエティ」
スタジオでの出演者同士のトークが主となるバラエティ番組
- ②「教養バラエティ」
クイズ形式などを用い、視聴者の教養となる知識を提供することを主とするバラエティ番組
- ③「音楽バラエティ」
ミュージシャンが出演し、楽曲を披露する内容が主となるバラエティ番組
- ④「情報バラエティ」
番組制作者側から提示・提供する情報を展開していくことを主とするバラエティ番組

- ⑤「演芸バラエティ」
漫才や落語、コントなど、演芸的内容を披露することを主とするバラエティ番組
- ⑥「課題克服バラエティ」
番組制作者、もしくは視聴者が準備した課題等を出演者が体験・克服することを主としたバラエティ番組
- ⑦「多コーナー型バラエティ」
特に決まった内容や企画は設けず、毎回、いくつかのコーナーを組み合わせて作りあげるバラエティ番組
- ⑧「映像バラエティ」
制作者以外が撮影した映像を紹介していくことを主としたバラエティ番組
- ⑨「ドキュメンタリー型バラエティ」
ドキュメンタリー番組の形態を用い、主に映像で表現することを主とするバラエティ番組
- ⑩「対決バラエティ」
スタジオ展開での芸能人同士の対決を主にしたバラエティ番組。
- ⑪「特番型バラエティ」
バラエティという大きなくくりの中で、毎回、異なる内容の番組を特番形式で放送するバラエティ番組

2. カテゴリー分け

12のカテゴリーを元に、曜日、放送局ごとにバラエティ番組をカテゴリー分けした結果は次のようになった。

- (月)
- 日本テレビ 「1分間の深イイ話」：①
「しゃべくり007」：①
 - テレビ朝日 「お試しかっ」：⑥
 - TBS テレビ 「ザ・今夜はヒストリー」：②
 - テレビ東京 「月曜プレミアム」：⑩
 - フジテレビ 「ネプリーグ」：⑦
「Hey!Hey!Hey!」：③
「SMAP×SMAP」：⑦
- (火)
- 日本テレビ 「火曜サプライズ」：④
「踊る!さんま御殿!!」：①
「コレってありですか」：①

テレビ朝日 「トリハダ^秘スクープ」：⑧
「みんなの家庭の医学」：②
「ロンドンハーツ」：⑦

TBS テレビ 「リンカーン」：⑦

テレビ東京 「ありえへん∞世界」：④
「仰天クイズ! 珍ルール SHOW」：④
「開運! なんでも鑑定団」：④
「ガイアの夜明け」：⑨

フジテレビ 「カスペ!」：⑪

(水)

日本テレビ 「はじめてのおつかい!」：⑥
「1位を取った名曲歌合戦」：③
「笑ってコラえて」：⑥
「ザ! 世界仰天ニュース」：⑧

テレビ朝日 「ナニコレ珍百景」：⑥

TBS テレビ 「ファミ☆ビョン」：⑨
「爆問パワフルフェイス」：⑦
「くらべるくらべらー」：④
「ジャパーン 47ch」：④

テレビ東京 「いい旅夢気分」：④
「やりすぎコージー」：⑦

フジテレビ 「クイズ! ヘキサゴンII」：⑦
「はねるのトびら」：⑤
「ほんまでっか! TV」：①
「ザ・ベストハウス 123」：⑧

(木)

日本テレビ 「なるほど! ハイスクール」：④
「ぐるぐるナインティナイン」：⑦
「秘密のケンミン SHOW」：②
「ダウンタウン DX」：①

テレビ朝日 「いきなり! 黄金伝説」：⑥

TBS テレビ 「スパモク」：⑪
「ひみつの嵐ちゃん!」：⑦

テレビ東京 「空から日本を見てみよう」：⑨
「和風総本家」：⑨

フジテレビ 「VS 嵐」：⑩
「奇跡体験! アンビリバボー」：⑧
「みなさんのおかげでした」：⑦

(金)

日本テレビ 「金曜スーパープライム」：⑪

テレビ朝日 「ミュージックステーション」：③
「Oh どや顔サミット」：①

TBS テレビ 「がっちりアカデミー!!」：②
「びったんこカン・カン」：⑨
「中居正広の金曜日のスマたちへ」：⑦

テレビ東京 「爆笑問題の大変よくできました」：①
「ちょこっといいこと」：⑦
「所さんのそこんトコロ」：②
「たけしのニッポンのミカタ」：②

フジテレビ 「ベケボン」：⑩
「金曜日のキセキ」：④

(土)

日本テレビ 「天才! 志村どうぶつ園」：⑨
「世界一受けたい授業!!」：②
「嵐にしやがれ」：①

テレビ朝日 「お願い! ランキングゴールド」：④

TBS テレビ 「飛び出せ! 科学くん」：②
「奇跡ゲッターブットパス!」：⑥
「世界ふしぎ発見!」：②

テレビ東京 「土曜スペシャル」：⑪
「出沒! アド街ック天国」：④
「美の巨人たち」：②

フジテレビ 「潜入! リアルスコープ」：④
「めちゃ×2 イケてるッ!」：⑦
「土曜プレミアム」：⑪

(日)

日本テレビ 「ザ! 鉄腕! ダッシュ!!」：⑥
「世界の果てイッテ Q」：⑥
「行列のできる法律相談書」：①
「おしゃれイズム」：①
「中居正広のブラックバラエティ」：⑦

テレビ朝日 「シルシルミシル日曜!!」：④
「大改造!! 劇的ビフォーアフター」：⑨

TBS テレビ 「さんまのスーパーからくり TV」：⑦
「クイズ・タレント名鑑」：④
「EXILE 魂」：③

テレビ東京 「もやもやサマーズ」：⑦

「日曜ビッグバラエティ」：⑪

「ソロモン流」：⑨

フジテレビ 「1年1組平成教育学院」：②

「爆笑大日本アカン警察」：⑥

以上、計87個のバラエティ番組をカテゴリー分けした結果は次の通りある。

多コーナー型バラエティ	：16番組
情報バラエティ	：14番組
トークバラエティ	：11番組
教養バラエティ	：11番組
課題克服バラエティ	：9番組
ドキュメンタリー型バラエティ	：8番組
特番型バラエティ	：7番組
音楽バラエティ	：4番組
映像バラエティ	：4番組
対決バラエティ	：2番組
演芸バラエティ	：1番組

最も番組数が多かったのは「多コーナー型バラエティ」である。この種のバラエティ番組では、番組に明確なコンセプトを設けないことで制作者側が自由に発想し番組を制作できる。また、人気のないコーナーは短期間で終了し、人気のあるコーナーは長期に渡って放送するなど視聴者の趣味趣向に臨機応変に対応できるのも強みである。したがって、長寿番組といわれる番組に多いカテゴリーでもある。しかし、反面、強烈なキャラクターを持つタレントが出演するバラエティ番組に多いカテゴリーでもあることからタレントへの依存度が高くなりすぎる危険性もある。

2位の「情報バラエティ」は過激なバラエティを望まないスポンサーや視聴者の意向を受けて、近年増加しているカテゴリーである。日本人の好きな「知的好奇心」を満足させることで安定した視聴率が望める。反面、爆発的なヒットを生むような番組は生まれにくい。

これは同数3位の教養バラエティにもいえることである。また最近では、教養バラエティへの出演が増加している知性派タレントと呼ばれるタレントも存在する。

同数3位の「トークバラエティ」は番組の予算縮小が進む近年において、スタジオセットとタレントがいれば成立する安易さから増加していると思われる。し

かし、この手の番組数が増加すると同じような内容、同じような出演者というマンネリ化が進むため、トークする話題（ネタ）の選択と新しい喋り手の出現が重要な鍵となる。

演芸番組が最下位となったのは時代の流れを感じる。つい最近まで「お笑い新時代」といわれるほど演芸番組全盛期であったはずである。これからバラエティ番組への出演を目指す若手芸人にとっては苦難の時代といえるかもしれない。

V バラエティ番組の現状

バラエティ番組を取り巻く環境はけして良好とはいえない。ここでは、バラエティ番組の現状を様々な角度から検証してみる。

1. BPO問題

2009年11月17日、放送倫理・番組向上機構（以後BPO）が「最近のテレビ・バラエティ番組に関する意見」¹⁴⁾を発表した。BPOとは放送による言論、表現の自由を確保しながら視聴者の基本的人権を擁護するため、NHK、民放連とその加盟会員各社によって出資・組織された任意団体である。

この意見は最近のテレビ・バラエティ番組について、BPO内の放送倫理検証委員会がこれを審議対象として取り上げるかどうかの討議に5回、審議を開始後は2回の臨時委員会を含める5回の委員会期日を費やし9カ月に及ぶ討議・審議の結果として発表されたものである。

意見の中では「四半世紀の間に行政当局によって行われた『注意』『嚴重注意』『警告』は30余件に及ぶと見られ、そのうちの20余件、実に7割近くが広い意味でのバラエティに関してである」と述べられている。

数々のバラエティ番組の制作に携わってきた元フジテレビ社員でフリープロデューサーの佐藤義和は著書の中¹⁵⁾で現在のバラエティ番組の在り方について「(バラエティ番組で取りあげる)ギャクやコントは社会風刺の意味合いが含まれていなければならない」と警鐘を鳴らす。

バラエティ番組の基本は笑いの追求であり、そのためには題材が必要である。それが巨大な組織や権力に向けられている時、視聴者は番組に対して好感を抱くはずである。しかし、それが社会的な弱者に向けられた時、

視聴者は不快感を抱くのではないかと考えられる。

BPO では、意見書の中で、その例を次のように挙げている。

- ・下ネタ
- ・イジメや差別
- ・内輪話や仲間内のバカ騒ぎ
- ・制作の手の内がバラバラなもの
- ・生きることの基本を粗末に扱うこと

それぞれの項目に関して視聴者から BPO に寄せられた意見をそれぞれ 1 つずつ紹介する。

下ネタ

女性の出演者の水着姿の写真を団扇にし、その股の部分に開けた穴に指を入れてあおぐ形にしたもの、番組の中で配っていた。子供も見せる番組なのに、信じられない。女性の体を蔑視した放送で、こういうことを平気でやる風潮が、女性を対象とした凶悪事件の土壌になっているのではないか。

イジメや差別

司会者のタレントが、黒人の演歌歌手に、「顔、黒いな。何つけたんや」と言っていた。皮膚の色をからかうなんて、最低だ。

内輪話や仲間内のバカ騒ぎ

タレントがお笑い芸人所有の車にペンキを塗りたくったその車を運転して芸人を追いかけて回っていた。脚にぶつかっただけですんだが、危険だし、意味のない低俗な笑いにしか思えない。(局に電話して、担当者に聞いたなら)「あくまで演出上、芸人所有の車にただけ、実際は違う」と言われ、啞然とした。

制作の手の内がバラバラのもの

深夜のトークバラエティで、2人のタレントが街頭で通行人の年齢や出身者を当てる企画。制作スタッフが通行人になりすまして、出演していた。視聴者が、その通行人と同じ名前が番組最後のスタッフロールにも出ていることに気づき、放送局に問い合わせたことから、問題化した。

生きることの基本を粗末に扱うこと

小学生の男の子が給食のパンを喉に詰まらせて亡くなる、といういたましい事故があった。そのお子さんはテレビ番組の真似をして早食いを試みたという。そのような事故を教訓に、番組から「大食い」「早食い」の企画は姿を消した。ところが、ある局が大食い番組を3時間にわたって放送しているのを見て、私は呆れてしまった。

この意見の反響は大きく、BPO の存在が世間に大きく認知されたばかりでなく、視聴者は今後、不快に感じるバラエティ番組に遭遇した場合、BPO へ苦情を報告する機会が増加することが予想される。

バラエティ番組の制作者は、これらの問題への対応策として、2010年3月「バラエティ向上委員会」と題するシンポジウムを民放連・放送基準審議会の主催で開催し、バラエティ問題の在り方について議論を交わした。

視聴者に不快感を与える番組が減少することは望ましいことであるが、一方で厳しすぎる監視体制は制作者に過剰な制限をかけることになるのも事実である。限られた表現方法の中でいかに良質の番組を制作していくことができるかはバラエティ番組が抱える大きな問題点である。

2. 制作費の減少

平成20年、アメリカの投資銀行リーマン・ブラザーズの破綻に端を発する、いわゆるリーマンショックが引き起こした世界的な金融危機のあおりを受け、テレビ界はスポンサーからの広告出稿量が激減した。

ここに、テレビ局大手5社、日本テレビ、フジテレビ、TBS、テレビ朝日、テレビ東京の平成21年3月、22年3月決算での売上を比較してみる^{16) 17) 18) 19) 20)}。

表6 各局決算売上比較

	平成21年3月	平成22年3月
日本テレビ	△5.2%	△8.5%
テレビ朝日	△2.2%	△6.9%
TBS	18.1%	△5.7%
テレビ東京	△1.6%	△11.5%
フジテレビ	△2.1%	3.6%

(%表示は対前期増減率)

フジテレビはなんとか前年比プラスとしたものの他の4社は軒並み前年比マイナスを記録した。

また、フジテレビ、TBSをのぞく残り3社は2年連続のマイナスである。

テレビ局の経営成績がマイナスということは番組制作費の減少につながる。制作費が減少すると番組の質が低下する。番組の質が低下すると視聴率が低下する。視聴率が低下すると、スポンサーの広告出稿量が減少する。広告出稿量が減少すると経営成績が悪化する。

テレビ局は次の図のような負のスパイラルに陥っている。

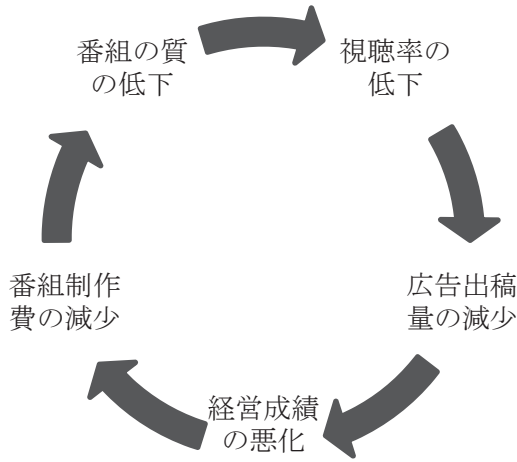


図1 テレビ局の負のスパイラル

この負のスパイラルの影響を最も強く受けているのがバラエティ番組である。高額な予算を与えられているGTやPTの時間帯において、予算の減少はタレントの出演料や人件費を含め、番組クオリティに直接関係する。

最近のバラエティ番組のマンネリ化と類似化は予算減少が少なからず影響していると考えて然るべきである。

3. 視聴者のテレビ離れ

バラエティ番組を含め、全てのテレビ番組を支えているのは視聴者である。その視聴者に関する興味深いデータがNHK放送文化研究所が行った生活時間調査である。その中で、テレビ視聴時間²¹⁾について一部を抜粋する。

表7 年代別テレビ平均視聴時間の推移(抜粋)

		95年	00年	05年	10年
男	10代	2:12	2:02	2:06	1:50
	20代	2:19	2:13	2:11	1:54
	30代	2:29	2:27	2:15	2:03
	40代	2:43	2:43	2:23	2:30
	50代	3:01	2:42	2:56	3:02
	60代	4:23	4:09	4:18	4:29
	70歳以上	5:10	5:34	5:22	5:39
女	10代	2:11	2:27	2:12	2:01
	20代	2:57	3:01	2:40	2:33
	30代	3:16	3:05	2:45	2:43
	40代	3:25	3:34	3:28	3:26
	50代	4:06	4:08	3:53	4:00
	60代	4:47	4:42	4:37	4:39
	70歳以上	5:08	5:04	5:29	5:29
国民全体		3:19	3:25	3:27	3:28

国民全体で見ると、テレビの平均視聴時間は増加しているが、注目すべきは男女とも10代、20代で減少している点である。テレビにスポンサーとして広告を出稿する企業が重要視しているのは購買層といわれる若い男女の視聴率である。この層のテレビ離れがますます進むということは、同時にスポンサー離れも進むことを意味している。

テレビ離れが進んでいるのは若い層だけではない。2011年7月24日、東日本大震災で被害を受けた岩手、宮城、福島の前3県を除いて、全国で地上アナログ放送が終了、地上デジタル放送への移行が終了した。それから約1カ月半後の2011年9月8日、テレビ界を騒然とさせる報道があった。

NHKの松本正之会長は、7月24日の地上デジタル放送への完全移行にともなう受信契約の解約の申し出が8月末までに9万件あったことを明らかにしたのだ²²⁾。経済的事情や嗜好の多様化などによりテレビを見ないことを決めた人が多いとみられ、松本会長は解約申し出が今後事業計画の4分の1に当たる10万件を超えるとの見通しを示した。地上デジタル放送への移行が視聴者のテレビ離れのきっかけとなってしまったことは否定できない事実である。

テレビ界はこの事実を深刻に受け止め、視聴者が視聴を望む番組の開発を進めなければならない。

VI まとめ

今、テレビ界は深刻な危機を迎えていることは否定できない。それはバラエティ番組においても同様である。

テレビ界はこの危機を厳粛に受け止め、真摯に對峙し、新たな方向性を見出さなければならない。

バラエティ番組はGT、PTの放送時間をみる限り、テレビ界を支える重要なコンテンツであることは明らかである。

バラエティ番組の発展は、そのままテレビ界全体の隆盛につながるといえる。

バラエティ番組自体に問題がないわけではない。具体的な規定の少ない自由演技のような制作形態のため、内容が物議を醸し出すことも少なくない。

本研究はバラエティ番組の現状からスタートし、バラエティ番組が辿ってきた道のりを整理する足掛かりとするものである。バラエティ番組の今後にも注目していきたい。

参考文献

- 1) NOnline プレミア http://business.nikkeibp.co.jp/free/tvwars/interview/20060127005218_print.shtml
- 2) 「週刊東洋経済」(2010年2月20日) 株式会社ダイヤモンド社 p.67
- 3) 「月刊民放」(2010年5月号) 社団法人民間放送連盟 p.16
- 4) 「新英和大辞典」(第6版) 研究社
- 5) 「ランダムハウス英和大辞典」(第2版) 小学館
- 6) 「広辞苑(第6版)」岩波書店
- 7) 「国語大辞典(新装版)」小学館
- 8) 「現代用語の基礎知識2011」自由国民社
- 9) 「現在用語の基礎知識カタカナ外来語／略語辞典(改定増補新版)」自由国民社
- 10) 放送法 <http://law.e-gov.go.jp/htmldata/S25/S25HO132.html>
- 11) 日本民間放送連盟 放送基準
<http://www.nab.or.jp/index.php?%CA%FC%C1%F7%CE%D1%CD%FD%2F%C6%FC%CB%DC%CC%B1%B4%D6%CA%FC%C1%F7%CF%A2%CC%C1%20%CA%FC%C1%F7%B4%F0%BD%E0>
- 12) 日本放送協会番組基準
<http://www.nhk.or.jp/pr/keiei/kijun/index.htm>
- 13) 「朝日新聞縮刷版」(2011. 6) 朝日新聞社
- 14) 「最近のバラエティ番組に関する意見」(2009) BPO 放送倫理・番組向上委員会決定 第7号
- 15) 「バラエティ番組がなくなる日」(2011) 主婦の友新書 p.188
- 16) 日本テレビ決算短信(平成22年3月期)
http://www.ntv.co.jp/ir/library/result/pdf/22_4q.pdf
- 17) テレビ朝日決算短信(平成22年3月期)
<http://company.tv-asahi.co.jp/contents/setnote/0052/data/all.pdf>
- 18) TBS 決算短信(平成22年3月期)
<http://v3.eir-parts.net/EIR/View.aspx?cat=tdnet&sid=798173>
- 19) テレビ東京決算短信(平成22年3月期)
http://www.txhd.co.jp/ir/library/earning_release/pdf/tvtokyo/20100514-1.pdf
- 20) フジテレビ決算短信(平成22年3月期)
<http://www.fujimediahd.co.jp/ir/pdf/er/h22/er0513.pdf>
- 21) 「生活時間調査からみたメディア利用の現状と変化～2010年国民生活時間調査より～」
http://www.nhk.or.jp/bunken/summary/research/report/2011_06/20110605.pdf
- 22) 毎日 jp
<http://mainichi.jp/select/wadai/news/20110909k0000m040059000c.html>